

神は自ら助けぬ者を助く

招かれるようなことがあって、行ったなら、末席に着きなさい。そうしたら、あなたを招いた人が来て、『どうぞもっと上席にお進みください。』と言うでしょう。そのときは、満座の中で面目を施すことになります。なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。

(ルカ14:10-11)

人はどこにいても、自分の「席」をつかむことに躍起になっています。相手を押しのけてでも、最善のポジションを得ようとするのも日常茶飯事です。私たちはみな、頂点を目指すことの大切さを教え込まれてきました。ですから、昇進や上席といった、最も望ましい位置を目指して頑張ることは私たちにとっては自然なことです。しかし、このたとえ話でイエスは、末席に着くようにと私たちに教えておられます。それは実際、最も容易に手に入る場所です。競争する必要もありません。だれも、欲しがらないからです。

「末席に着きなさい。」とイエスは言われます。「そして、招いた人が来て、『どうぞもっと上席にお進みください。』と言われるまで待ちなさい。」人生の主導権は神にあるという、徹底した信仰を持つようイエスは私たちに教えておられます。もし、自分を低くすれば、イエスが高めてくださいます。しかし、この事に関して、私たちはどれほどイエスを信頼しているのでしょうか。あなたが今置かれている状況について、確かに主は把握しておられると信頼できますか。「招いた人」である主が、実際末席にいるあなたに気づいて、上席に進むよう手配してくれると自信を持って言えますか。あるいは、他の人が自動的に上座を陣取り、あなたをそのまま末席に取り残されると思ってしまいますか。

確かにそのような信仰を持つことは、人生でリスクを負うことを意味します。リスクとまでいなくても、昇進の機会をみすみす逃してしまいます。「人の目にはまっすぐに見える道(箴言16:25)」に対し、この主のことは異議を唱えています。昇進に有利になる立場を取るべきだろうか。人からよく思われるために、自分の長所が注目されるようにすべきだろうか。気に入られたいと思っている人の期待を裏切らないよう、弱点を隠すべきだろうか。これらは、このたとえ話でイエスが反論しておられる心の不安を表しています。主が引き上げてくださるまで待てるだけの信頼関係を、私たちは持っているのでしょうか。あるいは、不安感から自ら状況を操作して、上を目指そうとしますか。イエスの教えは、明確です。信仰と忍耐をもって、主が上席に招いてくださるのを待つことです。

「神は自ら助くる者を助く」という聖書にはない格言をよく耳にします。しかし、イエスはこの有名な格言をくつがえされます。実にイエスがおっしゃっているのは、「神は自ら助けぬ者を助く」という意味です。驚くべきことです。「神の

目に自己を低くする者は、神が高められる」という法則をただ信じるだけでなく、大胆に行動に移すことができる信仰の強さについて、考えてみてください。そのような信仰に賭けることができますか。試練の時も、神は私のことを忘れておられないと信頼することができますか。末席を選んだのは、イエスのことばを信じたからという事実を主は知っておられると信じることができますか。主は、そのような信仰を私たちに期待され、信じれば必ず報いが伴うと約束しておられます。最もすばらしい報いとは、自由です。それは、自己保身によって引き起こされるさまざまな心配からの解放です。

質問：

- 1 このたとえ話でイエスが私たちに求めておられる覚悟について、あなたはどれほどの弱さを感じますか。どのような信仰があなたに求められるでしょうか。どれほどの忍耐が試されますか。
- 2 失敗することへの恐れや自分の立場を守らなければという不安は、どのようにあなたの人生の選択に影響を与えますか。それらは、どのようにあなたの信仰を抑制しますか。
- 3 どのような自由を主はあなたに奨励しておられますか。人生で神が与えられるいかなる状況をも受け入れるために、信仰はどのような働きをしますか。

祈り：イエスは、私たちに望まれる信仰の模範として、「野のゆりを考えてみなさい」とおっしゃいました。祈りの中で、現在あなたが置かれた立場に関して主を信頼し、その信仰から来る自由の喜びをかみしめてください。